

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-110	12-052	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名 (原題/訳)		
Impact of alcohol intake on total mortality and mortality from major causes in Japan: a pooled analysis of six large-scale cohort studies. 総死亡と日本の主要死亡へのアルコール摂取の影響：6つの大規模コホートの統合解析		
執筆者		
Inoue M, Nagata C, Tsuji I, Sugawara Y, Wakai K, Tamakoshi A, Matsuo K, Mizoue T, Tanaka K, Sasazuki S, Tsugane S; Research Group for the Development and Evaluation of Cancer Prevention Strategies in Japan.		
掲載誌		
J Epidemiol Community Health. 2012 May;66(5):448-56.		
キーワード		
アルコール、総死亡、癌死亡、心疾患死亡、脳卒中死亡		
要 旨		
目的： 全死亡と日本人の主要な死因に寄与するアルコールの量的な評価を作るために、日本の6つの進行中の大規模コホート研究の統合分析を実施した。		
方法： 対象者は309,082人で、3,832,285人年追跡のうち35,801人が死亡した。ランダムエフェクトモデルを用い、アルコール摂取量のカテゴリごとに、アルコール摂取による総死亡と主要死因の統合ハザード比を算出した。		
結果： 男性では総死亡および主要な死因のリスクとアルコール摂取量との間に、女性では総死亡リスクと心疾患死亡リスクにJ型もしくはU型の関連がみられた。非飲酒者と比べると、男性では総死亡リスクと心疾患死亡リスクはアルコール摂取量69g/日未満、がん死亡リスク、脳卒中死亡リスクはアルコール摂取量46g/日未満、女性では総死亡リスクがアルコール摂取量23g/日未満で有意に低かった。さらに、アルコール摂取量が増加するほど死亡リスクは直線的に上昇した。男性ではアルコール摂取量を46g/日未満に減らすと総死亡リスクの5%、がん死亡リスクの3%、心疾患死亡リスクの2%、脳卒中死亡リスクの9%を避けることができ、女性ではアルコール摂取量を23g/日にすると、これらの死亡リスクの0-1%を避けることができた。		
結論： 日本人において、アルコール摂取量を男性46g/日未満、女性23g/日に維持することにより死亡リスクを最小限に抑えられる。		